

わがふるさと 心に染みる自然がいっぱい

ふくもとしょうぞう
福元晶三
しろう
宍粟市長(兵庫県)



庭田神社 蔵出し式の様子

日本酒発祥の地、発酵のふるさと宍粟

奈良時代に編さんされた『播磨国風土記』に「大神の御糧、枯れて、かび生えき、すなわち酒を醸さしめて、庭酒を献りて、宴しき。」という一節があります。庭田神社(宍粟市一宮町)で初めて「かび」麹を使用しお酒を神様に献上したという記述です。この記述が酒造りに関する日本最古の記述であることから、わが宍粟市は「日本酒発祥の地」と言われています。江戸時代には二十数蔵の酒蔵が軒を連ねていました。現在も二つの酒蔵が風味豊かな日本酒を製

造しており、本市の豊かな自然の恩恵を受けて作られたお米やおいしい水を使って造られる日本酒は、地元のみならず多くの方に親しまれ、愛され続けています。

日本酒発祥の地を名乗り、市議会では私が就任した1年目の平成25年に「日本酒発祥の地宍粟市日本酒文化の普及の促進に関する条例」が議員発議で制定されました。これを機に催した講演会の講師で発酵学の第一人者である小泉武夫先生から、「日本酒発祥の地、発酵のふるさと」というお墨付きを頂きました。それ以来、「発酵のふるさと宍粟」として、ふるさと宍粟の魅力アップを図っています。

日本酒好きの私も、市長として11年、大病を患うことなく元気で過ごさせていただき、市政運営にまい進できているのも、宍粟の地が醸し出している発酵文化によって丈夫な身体をつくっていたいただいているおかげだとあらためて感謝をしております。

豊かな自然と大好きなアユ漁

本市は、兵庫県中西部に位置し28の1000m級の山々が連なり、ミネラルを含んだおいしい水が育まれる揖保川と千種川は発酵文化を支える豊かな水を絶え間なく私たちに注いでくれています。いずれの河川も太公望の心をつかんで離しません。全国各地で盛んに行われている「アユの友釣り」もわが宍粟市が発祥の地として、揖



「尺鮎」が釣れたことを標記する看板

保川の「縁の岩」にはその碑が建立されていますが、友釣りによって「尺鮎」が釣り上げられたことでも釣り客には期待を抱かせています。

さて、何を隠そう私も無類の「川好き」であります。市政運営の合間を見て漁期には自宅付近の揖保川に仲間と共に参じております。まさに忙中閑ありです。気分転換にもなり仕事への英気を養う場ともなっています。大好きなアユ漁ですが、私は専ら投網、瀬張りが中心で、自分でもおこがましいのですが名人を名乗っており、市外からのお客さまに自ら捕ったアユでのおもてなしも大きな喜びとなっています。



森林セラピー「赤西溪谷」



森林セラピーを体験

毎年、網4〜5枚を流れの速い瀬に張っているのですが、年々足元の踏ん張りが必要なくなっているように感じています。1年でも長く川とお付き合いできる体づくりが大切だと思います、少しのトレーニングですが続けている毎日です。

アクティビティ豊富な まちの首長として

本市は、森林が地域の約90%を占めており癒やしの空間はもとよりエネルギーギッシュに活動できるフィールドとして魅力満載です。

まず、平成27年3月に兵庫県内初となる森林セラピー基地に認定されました。森林セラピーとは、森林浴から一歩進んだ医学

的な証拠に裏付けされた森林浴効果のことで、森を楽しむながら身体の健康維持・増進、病気の予防を行うことを目指しています。市内に3カ所の森林セラピーロードがあり、いずれも癒やし効果抜群のロードですが、特に赤西セラピーロードは、西の奥入瀬溪谷と評してくださる方がいるなど人気のエリアです。

その他にもスキー場、キャンプ場、カヌー競技場などがあり、学生時代は高校野球、社会人になってからはスキーに没頭するなど身体を動かすことが大好きな私もワクワクするアクティビティが満載で、多くの方に訪れていただきたい魅力あるスポットです。

近年、地球温暖化の影響もあってかスキー場の積雪は思うようになりませんが、地元のスキー協会のご尽力でスキー大会も開催されており。市長就任後、若かりし頃スキーに没頭する姿を知る関係者から大会への参加のお誘いを受け、参加することに意義があると自らに言い聞かせ出走しましたが、成績は火を見るより明らかでした。ただ、けがなく完走を果たせたことはこの上ない喜びであり、公務を遂行する体力にわずかな自信も同時に湧いたところがあります。



第1回宍粟市民スキー大会
第41回戸倉スキー記録会 2019年1月26日

スキー大会で滑走する筆者

むすびこ

私はこのまちが大好きです。先人が培ってこられたわがまちの歴史、文化を次の世代につなげていくことが、今、市政を預かる私に課せられた使命だと考えています。

一昨年、日本の風景街道の創造を目指す「宍粟市風景ビジョン」を策定しました。目の前に広がる眺めだけが風景ではなく、脈々と受け継がれてきた歴史や文化、人の営みの一つ一つを「風景」と捉えて、これから創る「風景」と共に、市民共有の財産としてまちづくりを生かすこととしています。ぜひ、多くの方に訪れていただくとことのできる風景を創っていきたいと思いますし、まずはこの地に住む皆さんが誇れるまち、若者が帰ってきたくなるまちを目指していきます。